

平成28年度 造形学部 公募制推薦入学試験 試験問題

日本画学科 実技試験 (鉛筆デッサン) (3時間)

【問題】

与えられたモチーフと手を自由に構成し鉛筆デッサンしなさい。

与えられたモチーフは2枚とも使うこと。

[条件]

画用紙は縦横自由。

[配付物]

1. 試験問題
2. 答案用紙 (A2画用紙) × 1枚
3. 土佐薄みの紙 × 1枚
4. 高知麻紙 × 1枚
5. 下書き用紙 (B4上質紙) × 1枚

空間演出デザイン学科 構想力テスト (1時間)

【問題】

あなたの前にドアがあります。

そのドアを開くと、あなたにとって理想の空間が広がっています。

開かれたドアと、あなた自身を含むその空間を自由に描きなさい。

また、その様子を100字以内で説明しなさい。

[条件]

画用紙は横長で使用する。

[配付物]

1. 試験問題
2. 答案用紙① (B4画用紙) × 1枚
3. 答案用紙② (A4、100字詰め原稿用紙) × 1枚
4. 下書き用紙 (B4上質紙) × 1枚

## 建築学科 表現力テスト (2時間)

### 【問題】

配付した写真(コピー)は、あるひとつの建物の一部を異なるアングルから撮影したものです。

(1) 写真をよく観察し、以下について600字以内で述べなさい。②③は自由な想像を加えてよい。

①この建物の特徴

②周辺環境

③どんな人達がどのようにこの建物に住む、あるいは使うか

(2) 想像したこの建物の外観と周辺環境をスケッチ等の図で表現しなさい。

### [条件]

1. 【問題(1)】の解答は配付された原稿用紙に、指定字数に従って縦書きで記入すること。

2. 【問題(2)】の答案用紙(B4画用紙)は横長で使用する。

### [配付物]

1. 試験問題

2. 写真(コピー)×1枚

出典:『新建築』2010/02、表紙・84頁、新建築社

3. 【問題】(1)用 原稿用紙×1枚

4. 【問題】(2)用 答案用紙(B4画用紙)×1枚

5. 下書き用紙(B4上質紙)×3枚

## 映像学科 ディレクション資質重視型 構想力テスト

### 【問題】

「記録的な雨」というテーマの表現を構想し、下記①～③の手順に沿って発表しなさい。

①構想制作 (15分)

配付した白紙(大)に発表のための資料を作成しなさい。

### [条件]

1. 配付したマーカーを使用すること。

2. 文字、文章、記号、図など表現は自由。

3. 白紙(小)は下書き用。

②個別発表 (各自5分)

作成した資料をホワイトボードに貼って、その資料に沿って構想を発表しなさい。

個別発表の際、資料へ書き加えること、および他の人の発表をメモすることは自由とする。

③グループ討議 (15分)

自分の構想、他の人の構想について自由に討論しなさい。

発言順は指示しない。

## 芸術文化学科 小論文 (1時間30分)

### 【問題】

配付した資料は、栗田勇著『日本文化のキーワード』の中で述べられている文章です。文中の傍線部分について、あなたの経験や身近なことと本文とを関連づけて考えを述べなさい。(800字以内)

### [条件]

1. 解答は、配付された原稿用紙に指定字数に従って縦書きで記入すること。
2. 氏名欄は全頁記入すること。

### [配付物]

1. 試験問題
2. 別紙×1枚  
出典：『日本文化のキーワード』栗田勇、祥伝社、2010年
3. 原稿用紙×1セット
4. 下書き用紙（B4上質紙）×1枚

## 芸術文化学科 プレゼンテーション及びグループ面接

### 【問題】

あなたたちにとって、今一番問題なのは何ですか。その問題についてアートやデザインを活用して解決策を提案してください。

## デザイン情報学科 小論文 (1時間)

### 【問題】

近年「これからは心の豊かさやゆとりのある生活をすることに重きをおきたい」という人の割合が多くなってきています。あなたが“心の豊かさ”につながると思う代表的な事例をひとつ取り上げ、その概要や理由をデザインの視点から解説しなさい。また文章にはタイトルを付けなさい。(600字以内、タイトル15字以内)

### [条件]

1. 解答は、配付された原稿用紙に指定字数に従って縦書きで記入すること。
2. タイトルは原稿用紙の1行目に記入し、2行目から解答文を記入すること。タイトルは指定字数に含む。

### [配付物]

1. 試験問題
2. 原稿用紙×1枚
3. 下書き用紙（B4上質紙）×1枚

日本語が乱れているというのは本当か

このごろ、日本語が乱れている。敬語が目茶苦茶だ、外来語のカタカナが多すぎる、若者の変な造語がさっぱりわからない、日本語はこの先どうなるんだと、よく話題になる。たしかにそういう気がしないでもない。だが、本当にそうだろうか。

ここで、正しい言葉とは一体何だろうと、もう一度考えてみる必要がある。もし正しい言葉というものが、一つだけはっきり定まっているのであれば、たしかに、皆がそれだけを使えば用は足りることになる。

たとえば水を飲みたいということを書いたとき、意味が伝わりさえすればいいのであれば、「水が飲みたい」という言い方が一つあれば充分だ。しかし、現実はどうだろうか。そんな簡単なものではない。

人間の生活や心は限りなく豊かだ。そこで言葉にもひねりをかけようとする。「ああ、水が飲みてえな」とか「喉がからっからだ」とか、なぜか一本調子の言い方から外してみたくなる。

とくに、若者は言葉の冒険をすることで自己主張をしたり、目立ちたがる。また、自分たちの遊び心や、グループの仲間意識などを満足させようとする。

若者はかりでない。職人さんなども、自分たちの職業の特色を表わすために、言葉にひねりをかけることがままある。

正しい言葉というものは、たしかにあるはずだ。しかし、実際に生活のなかで言葉が活きているのは、ひねりをかけて、そこからちよつと外した姿である。だから、逆に活きている言葉は、正しい言葉の外側にあるともいえる。

その造ったおもしろい言葉、ひねった言葉、隠語などが活きているということは、逆にいうと、ひねっているということ、皆が意識しているわけだ。つまり、正しい言葉のあり方を、じつは知っているということになる。

したがって、私は日本語の行く末について、それほど心配していない。いろいろと若者が造語する。ハイティーンやローティーンが携帯電話やメールでカチャカチャやっている。それはやはり言葉遊びをして、言葉の感覚を磨いている、あるいは自分の個性を主張しているのだともいえる。

しかし、逆にいえば、正しい言い方というものが意識されているから、それができるわけだ。それがなければ、言葉は通じなくなってしまう。

だから、活きている言語、ビビッドな生の言葉というのは、遠心力と求心力がはたらいている。その両端の間を揺れ動いている。緊張感で人にアピールしているわけである。

#### 言葉の機能化が進む現代

しかし、現実にはたとえば「人から何かしてもらったら、『ありがとう』と言うこと」という具合に、言葉をたんなる機能、道具として使うという風潮のほうが強いの

とくに戦後の話し方教育は、「ありがたい」という言葉一つを取り上げても、言葉の世界をたいへん貧しくしてしまった。

サービス業においては、言葉までマニュアル化が進んでいる。

現代は、管理社会というか組織化された社会である。そのため、言語も、より機能的な面が要求されているのは確かである。

たとえば、航空パイロットの言葉は、みな英語だ。全世界の空で、英語らしきものでやり取りされている。しかし、これはもはや本来の英語とは別の、国際航空語とも言うべき言語であろう。

そこでは少々発音が悪くても、イントネーションが悪くてもかまわない。操縦に必要なこと、それだけを正確に伝えていければよいのである。ことは乗客の命にかかわる。単純明快な、有効性のある、インターナショナルな新しい航空地球語というようなものが、出来上がっている。

また、ビジネスや、国際間の取引の言葉にしても、何はともあれ国際化した言葉で、万国共通のお金のやりとりをしてもうけたい。そのための機能をすみやかに果たしたいという世間の要求は、最近たしかに強くなっている。

その点で日本語は、とりわけニュアンスの深い言葉だから、不都合が多い。そこで、なおのこと機能化の要求が強くなってきている。

ただし、じつは日本語はやさしい、語順とか文法がいまいなだけフレキシブルだから、会話は楽だという話もある。

ともあれ、すべての言葉が会社の受付電話のように機能化・マニュアル化されて、それだけが正しい言葉だというのは、いかにもさびしい。会社やビジネスで訓練された言葉を身につけても、家に帰ると、夫婦間の会話も子どもとの会話もできないというところも、いずれ起こってくる。

たしかに、簡単に役に立つという言語の機能を軽視することはできないが、そればかりに重きを置く今日の風潮は、日本人の言葉を貧しくしている。いや、生活の内容さえ貧困にしかねないのである。

こうした、近頃の風潮は、私には、何やら言葉というものを、たんに意味を右から左へ運搬するための道具としか考えていないように思われる。しかし、それはビジネスという、ごく限られた一部の分野でのみ有効な考え方であって、人間生活全体に当てはめるべきものではない。

だからこそ、もっと全体の場というもの、人間の生活や、コミュニティというものを掘り下げ、言葉を一つの文化全体の中に位置づけるというこだわりを持つ必要がある。